

熊野町総合計画住民意識調査報告書

【集計結果】

令和2年2月
熊野町

《目 次》

第1章 調査方法.....	1
第2章 結果の概要.....	2
1. 安心・安全な暮らしに対する意識が上がっている.....	2
2. 地域活動、産業活動関係の関心が低い.....	2
3. 公共交通の充実、道路整備は引き続いての課題.....	2
4. 郷土に特色を感じている.....	2
第3章 調査結果.....	3
1. あなた自身のことや住まいについて.....	3
2. 熊野町の現在のまちづくりについて.....	7
3. まちの住みやすさについて.....	27
4. 今後のまちづくりについて.....	32

第1章 調査方法

1. 調査の目的

本調査は、熊野町次期総合計画の策定に際し、広く住民の意見を把握し、計画策定の参考とすることを目的として実施した。

2. 調査の方法

(1) 調査対象者

調査対象者は、無作為に抽出した18歳以上の熊野町住民2,500人である。

(2) 調査方法

配布・回収ともに郵送法で行った。

(3) 調査期間

令和元年10月10日～10月23日。

3. 回収結果

有効回収数は1,140件、有効回収率は45.6%となっている。

4. 集計・分析方法

(1) 集計方法

本報告書で使用する百分率は、小数点第二位を四捨五入した値で表示した。このため、比率の合計が100%にならないことがある。

複数回答項目については、回答すべき人を分母として百分率を算出した。

(2) 分析方法

単純集計のほかに、年代や地域ごとのクロス集計を行っている。

地域ごとの集計は中央部南西地域（呉地・出来庭・中溝）、中央部北東地域（萩原・城之堀）、東部地域（初神・新宮）、西部地域（川角・平谷・貴船・石神・神田・柿迫・東山）の4つに区切り集計している。

第2章 結果の概要

1. 安心・安全な暮らしに対する意識が上がっている

平成30年の西日本豪雨災害では、本町においても多大な被害がありました。

これを踏まえ、今回の調査では「避難喚起・避難誘導體制」についても設問に入れたところ、満足度、重要度ともに上位項目となっています。防災対策についても10年前と同じく上位に上がっており、住民の防災意識が高い事がうかがえます。

また、救急体制や医療体制、高齢者福祉の重要性も引き続いて上位に上がっています。

安全、安心のための取組は満足度に関係なく充実していくことが必要です。

2. 地域活動、産業活動関係の関心が低い

「住民協働」への意識が10年前と比較して低下しています。また、生涯学習やボランティア活動などの重要度も低い順位にとどまっており、全体的に関心が低いことがうかがえます。

産業活動においても、雇用促進や企業誘致、商業活動などは満足度が低いものの重要度も低くなっており、町外を含めた広域的な生活圏での暮らしを前提としていることがうかがえます。

熊野町を「住まいの場」として捉え、就労や買い物等、必ずしも町内で完結する必要性が低くなっており、広域圏での取組が課題となります。

3. 公共交通の充実、道路整備は引き続いての課題

「道路の整備」と「バス路線の利便性」は、前回調査から引き続き満足度が低く、重要度が高い項目となっています。平成30年の西日本豪雨災害においても、道路網の寸断が課題になったため、より意識が高まっているものとみられます。

また、上記の項目も踏まえ、近隣市町との交通網は本町の要となる施策となります。通勤や買い物に行くための手段として、重要な位置づけとなります。

近年、全国的に高齢者の自動車運転や、地域交通の役割の重要性が課題となっており、今後の後期高齢者の増加とともに、より充実が望まれる施策となります。

4. 地域ブランドや伝統文化のさらなる活用が必要

熊野筆をはじめとする地域ブランド力や、伝統文化の振興については、かなり満足度が高い状態ですが、その重要性を意識している人は比較的少なめとなっています。

世界的なブランドとなっており、本町の最大の特徴である熊野筆ですが、現状に満足しており、これを活用した振興策や、伝統の継承を進めていくことが必要となっています。

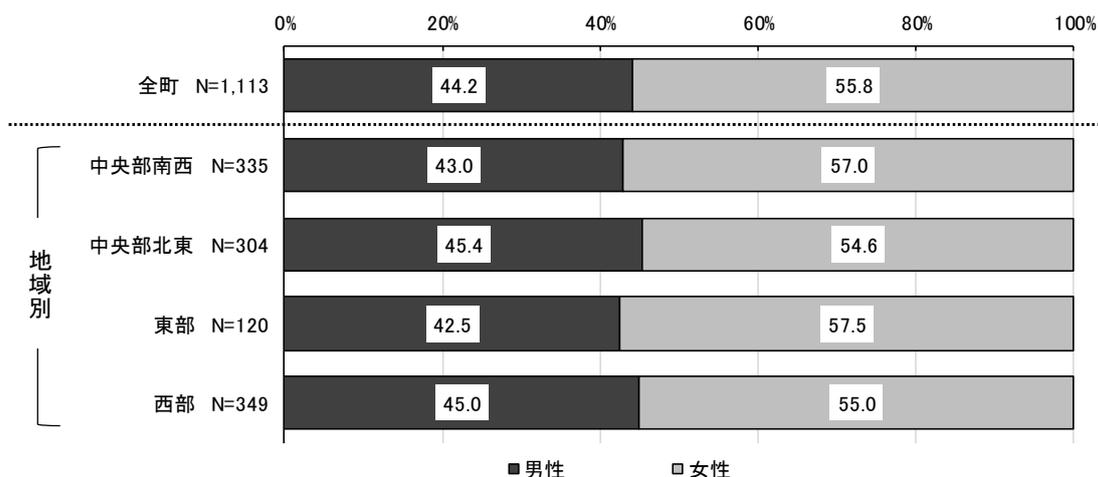
地域活動の意識醸成とともに、本町の特色ある活動に繋げていくことが望めます。

第3章 調査結果

1. あなた自身のことや住まいについて

問1 あなたの性別はどちらですか。（単数回答）

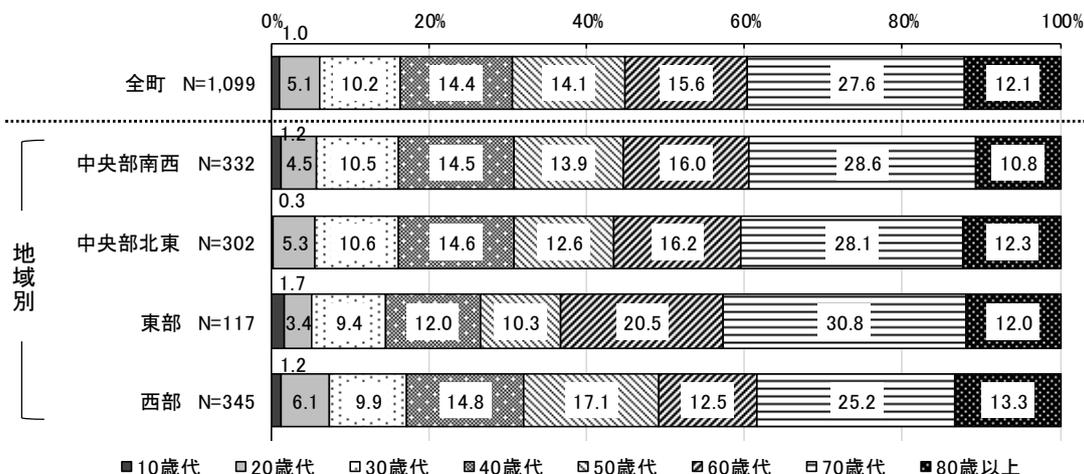
「女性」が55.8%、「男性」が44.2%となっています。



問2 あなたの満年齢をお答えください。（数量）

「70歳代」が27.6%で突出しています。次いで「60歳代」が15.6%、「40歳代」が14.4%、「50歳代」が14.1%が続いています。

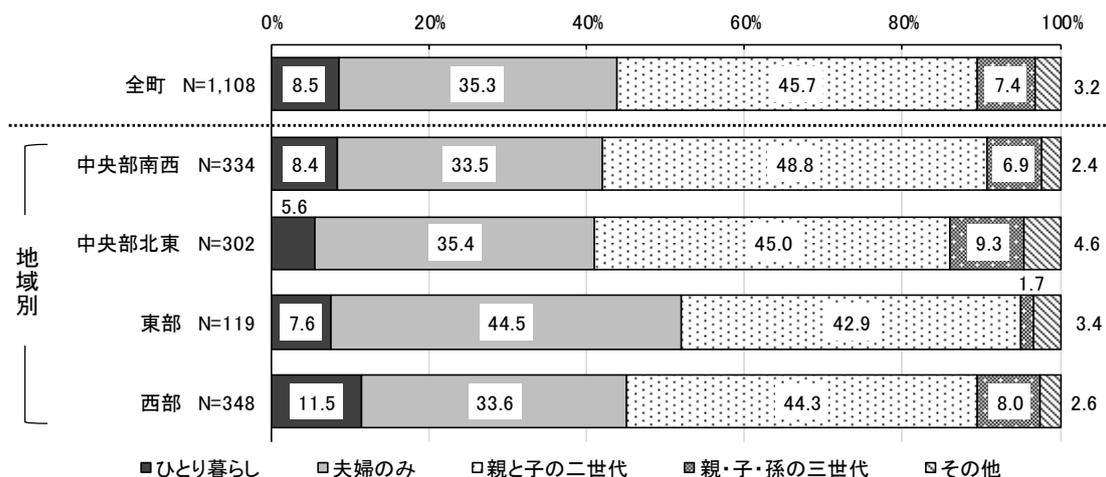
地域別では、4地域とも「70歳代」の占める割合が最も高く、「東部」では3割を超えています。



問3 あなたの世帯構成を教えてください。（単数回答）

「親と子の二世帯」が45.7%で最も高くなっています。次いで「夫婦のみ」が35.3%で続いています。

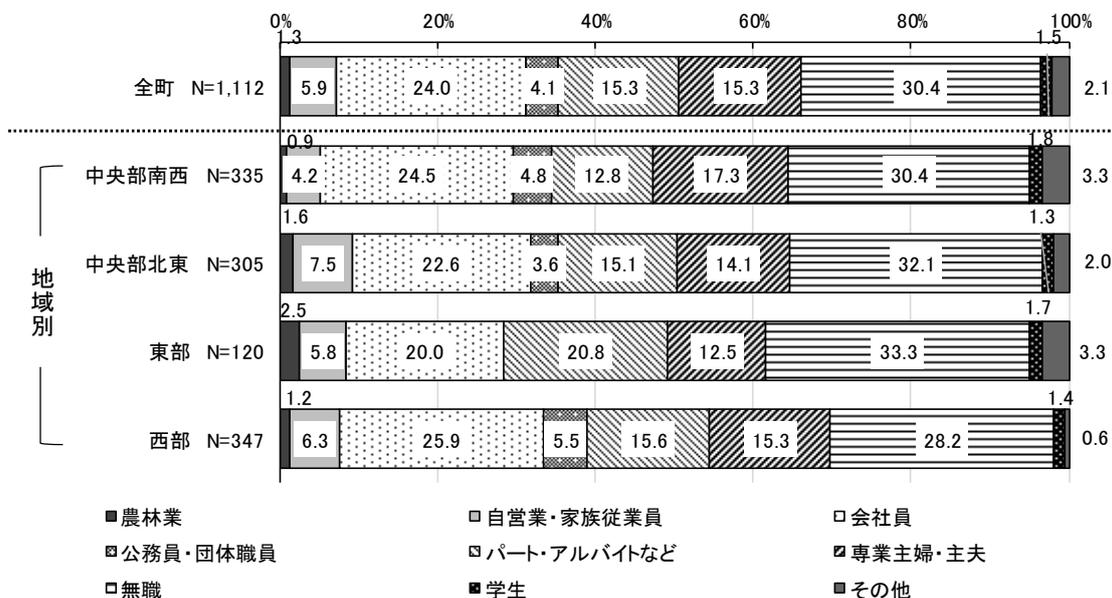
地域別では、『中央部南西』『中央部北東』『西部』において「親・子・孫の三世帯」、『東部』では「夫婦のみ」の割合が最も高くなっています。



問4 あなたの職業は、次のうちどれに該当しますか。（単数回答）

「無職」が30.4%で最も高くなっています。次いで「会社員」が24.0%、「パート・アルバイトなど」と「専業主婦・主夫」がともに15.3%で続いています。

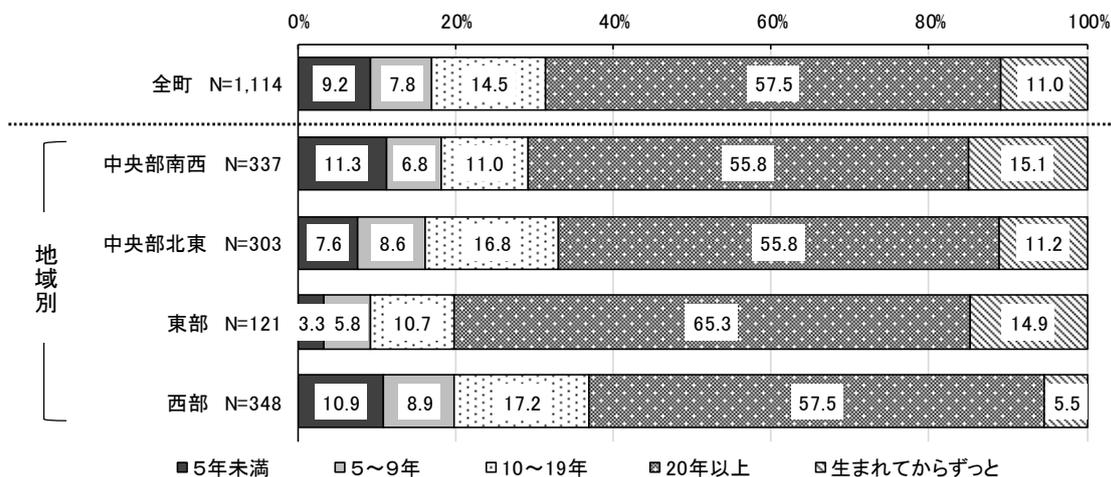
地域別では、4地域とも「無職」の割合が最も高くなっています。『東部』では「パート・アルバイトなど」の割合が他の地域に比べると高くなっています。



問5 今の場所にどのくらいお住まいですか。（単数回答）

「20年以上」が57.5%で突出しています。次いで「10～19年」が14.5%、「生まれてからずっと」が11.0%が続いています。

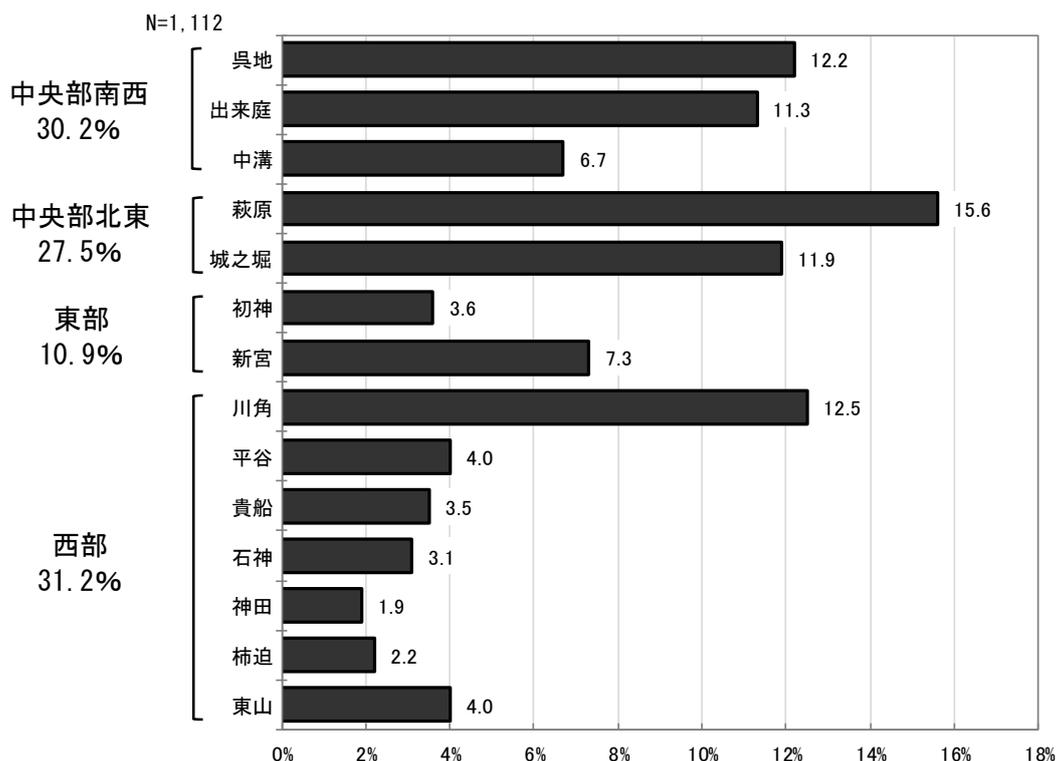
地域別では、4地域とも「20年以上」の割合が最も高く、『東部』では6割を超えています。



問6 あなたの住まいが属する地区（大字）はどこですか。（単数回答）

「萩原」が15.6%で最も高くなっています。次いで「川角」が12.5%、「呉地」が12.2%、「城之堀」が11.9%、「出来庭」が11.3%が続いています。

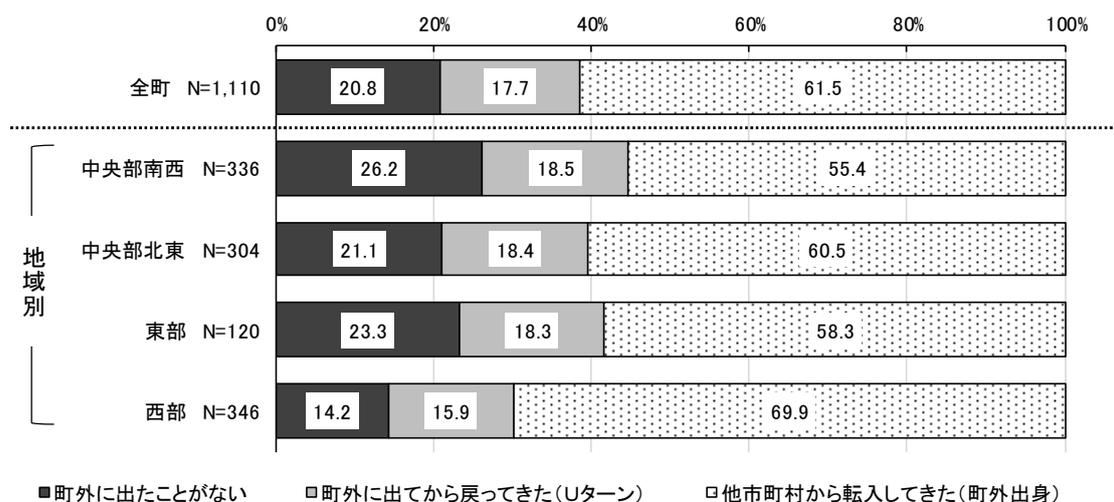
地域別では、「中央部南西」が30.2%で最も高く、次いで「中央部北東」が27.5%となっています。



問7 熊野町への転入・転出についてお聞きします。(単数回答)

「他市町村から転入してきた(町外出身)」が61.5%を占めています。次いで「町外に出たことがない」が20.8%、「町外に出てから戻ってきた(Uターン)」が17.7%となっています。

地域別では、4地域とも「他市町村から転入してきた(町外出身)」の割合が最も高く、『西部』では約7割となっています。



2. 熊野町の現在のまちづくりについて

問8 次にあげる町の基本施策について、現在、どの程度満足していますか。また、あなたの「今」、あるいは「これから」の生活にとって、どのくらい重要ですか。（各SA）

施策の満足度では、「消防・救急救助体制」が最も高く、続いて「伝統文化の継承と振興」「熊野筆のブランド戦略」などと続いています。

施策の不満足で見ると、「路線バスの利便性」「道路の整備」が群を抜いて高くなっています。

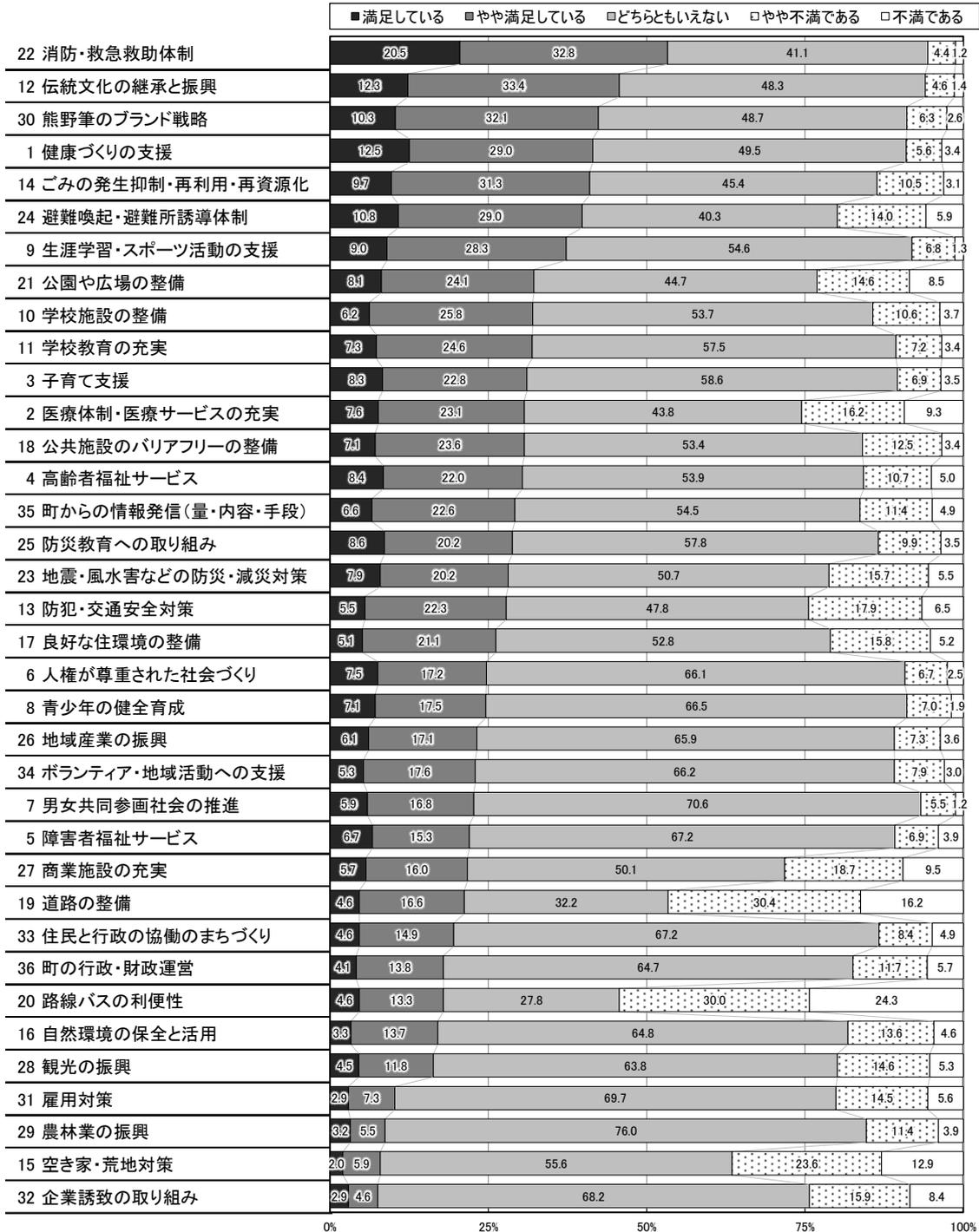
また、「商業施設の充実」「医療体制・医療サービスの充実」「防犯・交通安全対策」などで比較的不満が高くなっています。

施策の重要度においても、「消防・救急救助体制」が最も高くなっています。

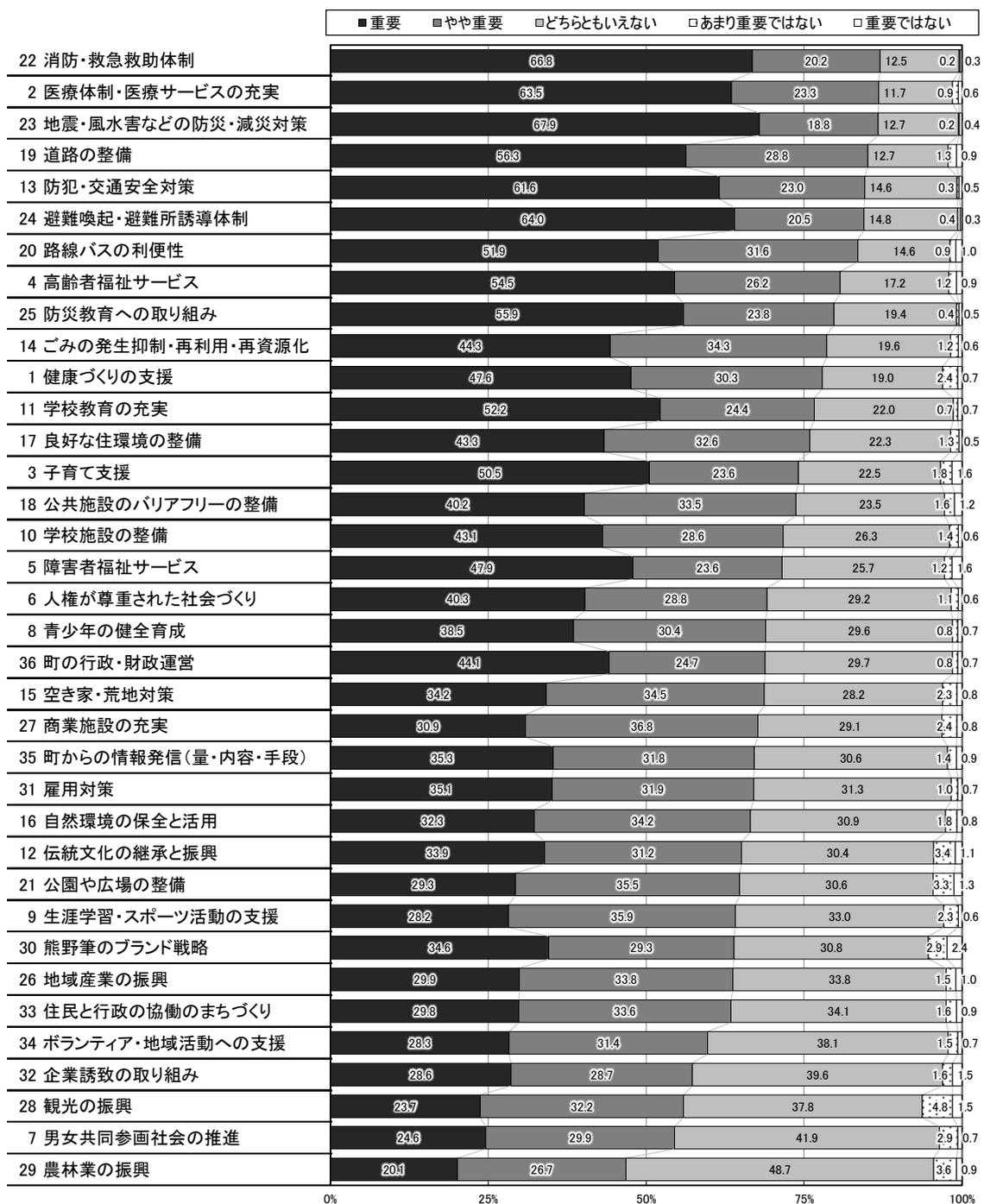
重要度では、消防、救急、防災関係の他、医療、道路交通、バス路線等が高くなっています。

「農林業の振興」を除くすべての項目で重要性の合計が過半数となっています。

【満足度(令和元年)】



【重要度(令和元年)】

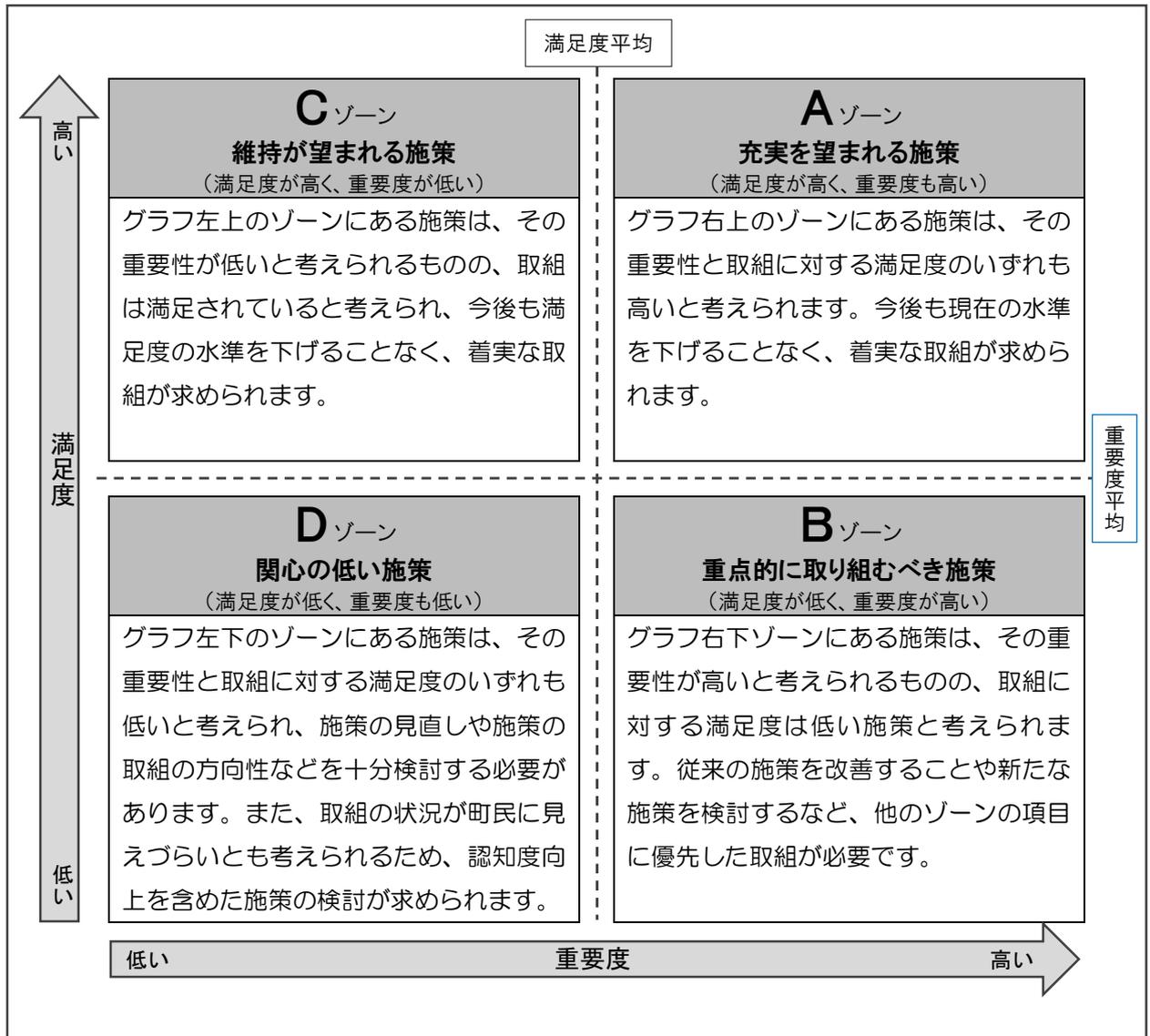


【満足度・重要度の評価】

調査結果をもとに、質問項目別に満足度と重要度を集計しました。満足度・重要度の考え方は以下のとおりです。

- ①満足度スコア：「満足している」「やや満足している」と回答した人の割合－「やや不満である」「不満である」と回答した人の割合
 - ②重要度スコア：「重要」「やや重要」と回答した人の割合－「あまり重要ではない」「重要ではない」と回答した人の割合
- ※無回答については、スコアから除外しています。

■ 4つのゾーンの整理及びゾーンの見方について



施策の満足度の評価をみると、36項目のうち、第1位は47.7%、第36位は-36.4%で、84.1ポイントの乖離があります。

最も満足度が高いのは「消防・救急救助体制」、次いで「伝統文化の継承と振興」「健康づくりの支援」「熊野筆のブランド戦略」「健康づくりの支援」で、これらが上位5位を占めています。

一方、最も満足度が低いのは、「路線バスの利便性」、次いで「空き家・荒地対策」「道路の整備」「企業誘致の取り組み」「雇用対策」で、これらが下位5位を占め、交通、産業について満足度が低くなっています。

施策の重要度を数値化した値でみると、36項目のうち、第1位は86.5%、第36位は42.3%で、44.2ポイントの開きがあります。

重要度がマイナスになった項目はなく、すべてにおいて重要性が勝っている結果となっています。

最も重要度が高いのは「消防・救急救助体制」、次いで「地震・風水害などの防災・減災対策」「医療体制・医療サービスの充実」「防犯・交通安全対策」「避難喚起・避難所誘導體制」で、これらが上位5位を占め、防災・減災について重要度が高くなっています。

一方、最も重要度が低いのは、「農林業の振興」、次いで「観光の振興」「男女共同参画社会の推進」「企業誘致の取り組み」「ボランティア・地域活動への支援」で、これらが下位5位を占め、産業について重要度が低くなっています。

重要度が高いのに、満足度が低い項目のうち、特に改善が求められるもの（重要度が上位10位以内で、満足度が下位10位以内）は、「道路の整備」と「路線バスの利便性」となっています。

【36の施策に対する満足度スコアによる前回調査との比較】



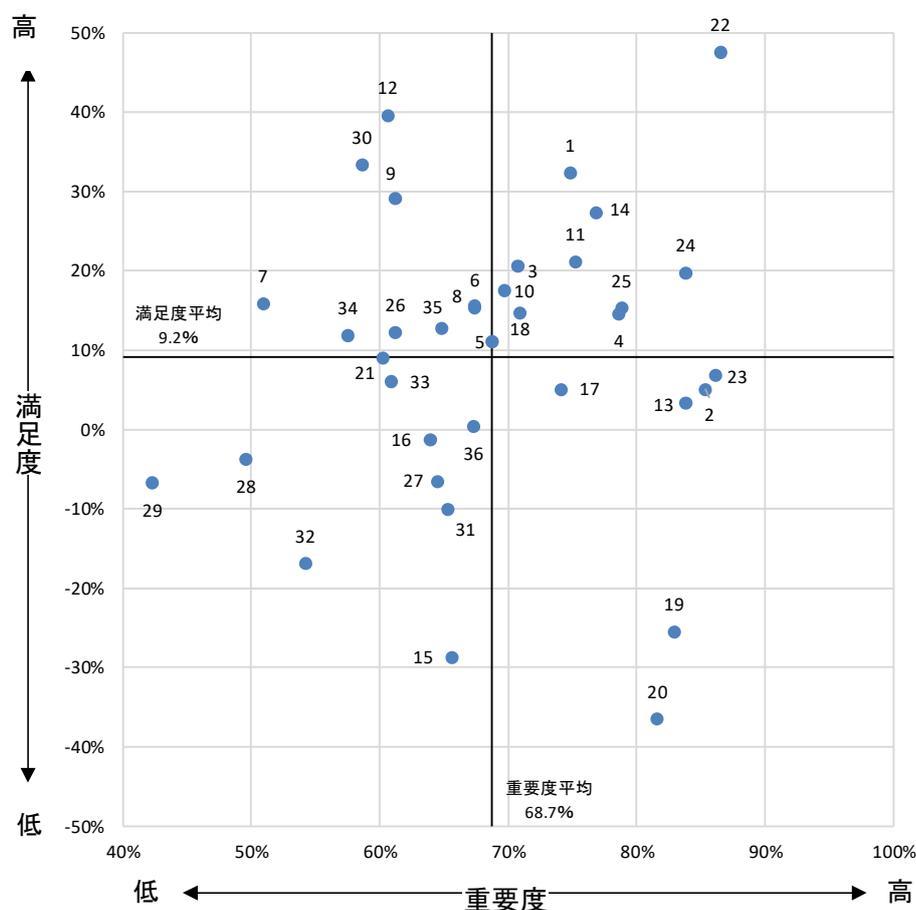
※前回調査と文言が違う場合があります。

【36の施策に対する重要度スコアによる前回調査との比較】



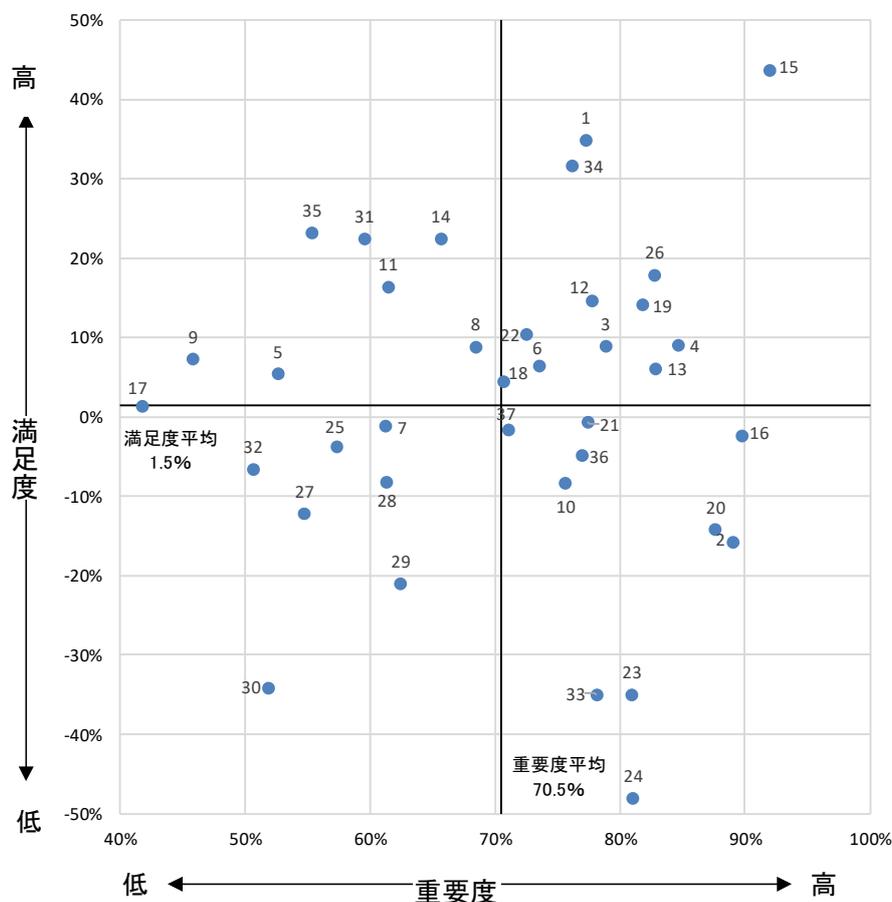
※前回調査と文言が違う場合があります。

【満足度・重要度（全町）】（令和元年）



1	健康づくりの支援	19	道路の整備
2	医療体制・医療サービスの充実	20	路線バスの利便性
3	子育て支援	21	公園や広場の整備
4	高齢者福祉サービス	22	消防・救急救助体制
5	障害者福祉サービス	23	地震・風水害などの防災・減災対策
6	人権が尊重された社会づくり	24	避難喚起・避難所誘導体制
7	男女共同参画社会の推進	25	防災教育への取り組み
8	青少年の健全育成	26	地域産業の振興
9	生涯学習・スポーツ活動の支援	27	商業施設の充実
10	学校施設の整備	28	観光の振興
11	学校教育の充実	29	農林業の振興
12	伝統文化の継承と振興	30	熊野筆のブランド戦略
13	防犯・交通安全対策	31	雇用対策
14	ごみの発生抑制・再利用・再資源化	32	企業誘致の取り組み
15	空き家・荒地対策	33	住民と行政の協働のまちづくり
16	自然環境の保全と活用	34	ボランティア地域活動への支援
17	良好な住環境の整備	35	町からの情報発信（量・内容・手段）
18	公共施設のバリアフリーの整備	36	町の行政・財政運営

【満足度・重要度（全町）】（平成21年）

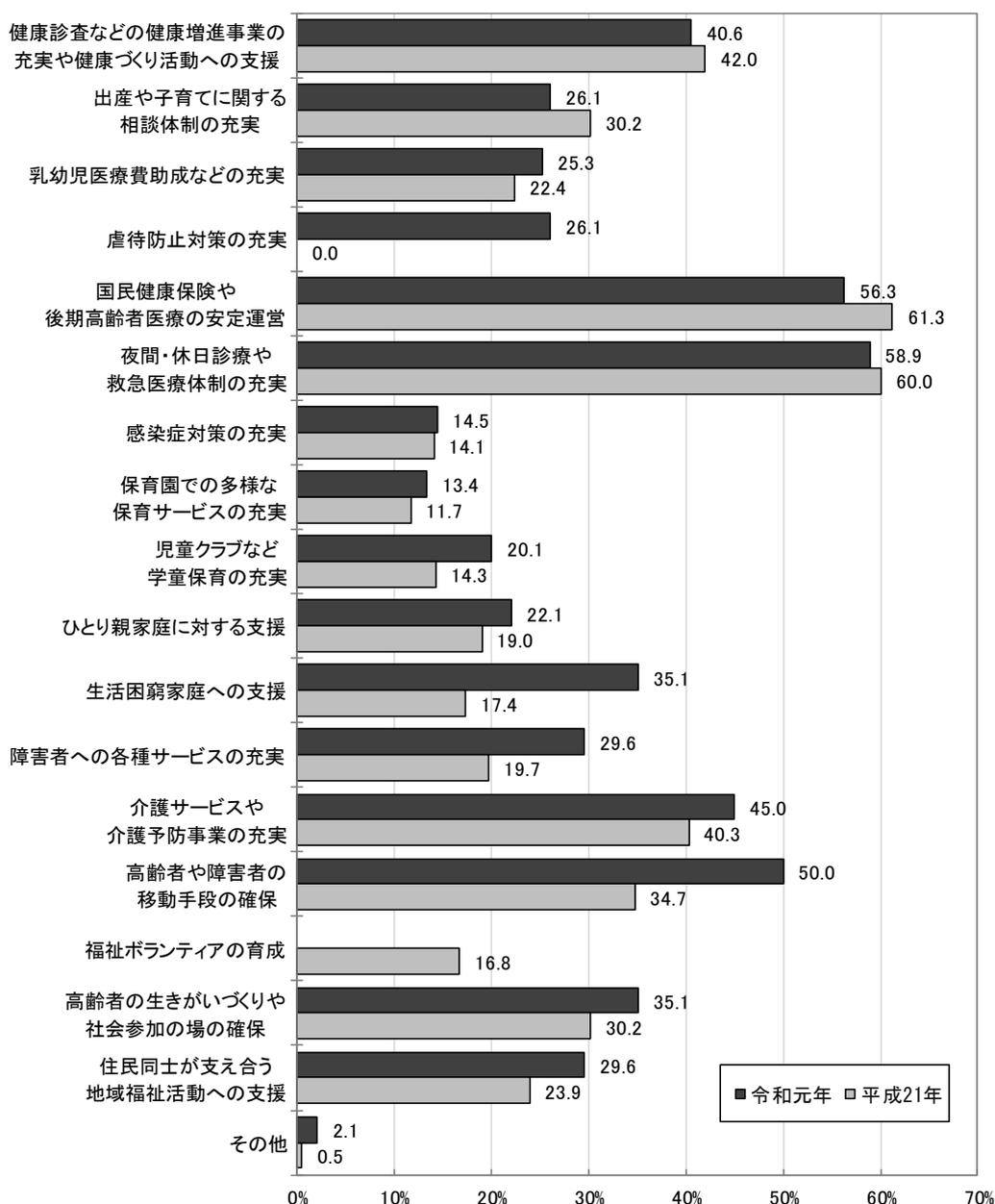


1	健康づくりの支援	20	地震・風水害などの防災対策
2	医療機関の充実	21	良好な住環境の整備
3	子育て支援	22	公共施設のバリアフリーの整備
4	高齢者福祉サービス	23	道路の整備
5	ボランティア活動への支援	24	路線バスの利便性
6	障がい者の福祉サービス	25	公園や広場の整備
7	母子（父子）家庭への支援	26	上下水道の整備
8	人権が尊重された社会づくり	27	農林業の振興
9	男女共同参画社会の推進	28	製造業の振興
10	青少年の健全育成	29	商店街の充実
11	生涯学習の支援や学習機会の提供	30	企業誘致の取り組み
12	学校施設の整備	31	筆産業の支援
13	学校教育の充実	32	観光の振興
14	文化・スポーツ施設の整備	33	雇用対策
15	消防・救急救助体制の充実	34	窓口サービスや職員の対応
16	防犯・交通安全対策	35	町ホームページの情報量や内容
17	公営住宅の整備など住宅対策	36	町の行政・財政運営
18	自然環境の保全と活用	37	住民と行政の協働のまちづくり
19	ごみの発生抑制・再利用・再資源化		

問9 あなたは保健・医療・福祉の分野について、今後どのような点に力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

「夜間・休日診療や救急医療体制の充実」が58.9%で最も高くなっています。次いで「国民健康保険や後期高齢者医療の安定運営」が56.3%、「高齢者や障害者の移動手段の確保」が50.0%、「介護サービスや介護予防事業の充実」が45.0%で続いています。

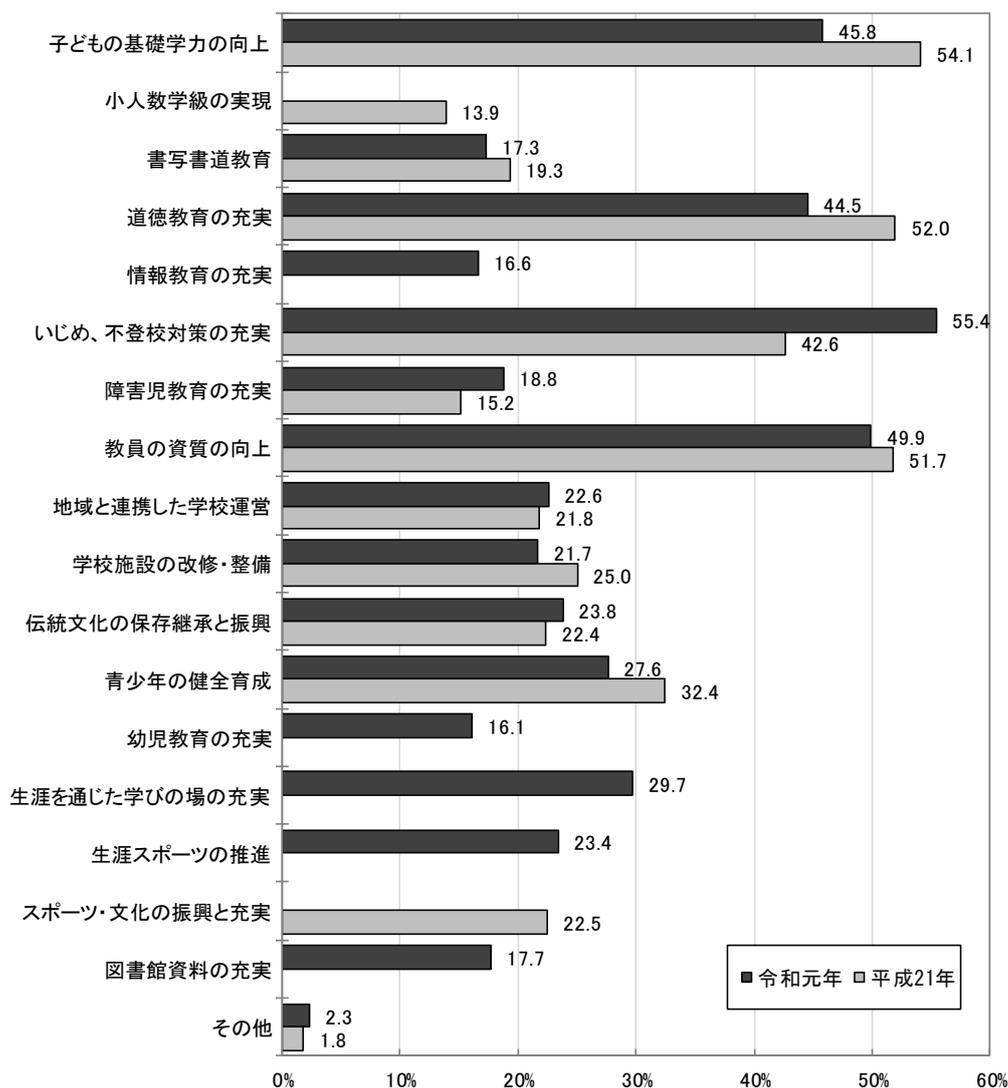
前回調査時と比較すると、「高齢者や障害者の移動手段の確保」の割合が高くなっていますが、概ね同様の傾向となっています。



問10 あなたは教育・文化の分野について、今後どのような点に力を入れていくべきだと思いますか。(MA)

「いじめ、不登校対策の充実」が55.4%で最も高くなっています。次いで「教員の資質の向上」が49.9%、「子どもの基礎学力の向上」が45.8%、「道徳教育の充実」が44.5%で続いています。

前回調査時と比較すると、「いじめ、不登校対策の充実」の割合が高くなっています。

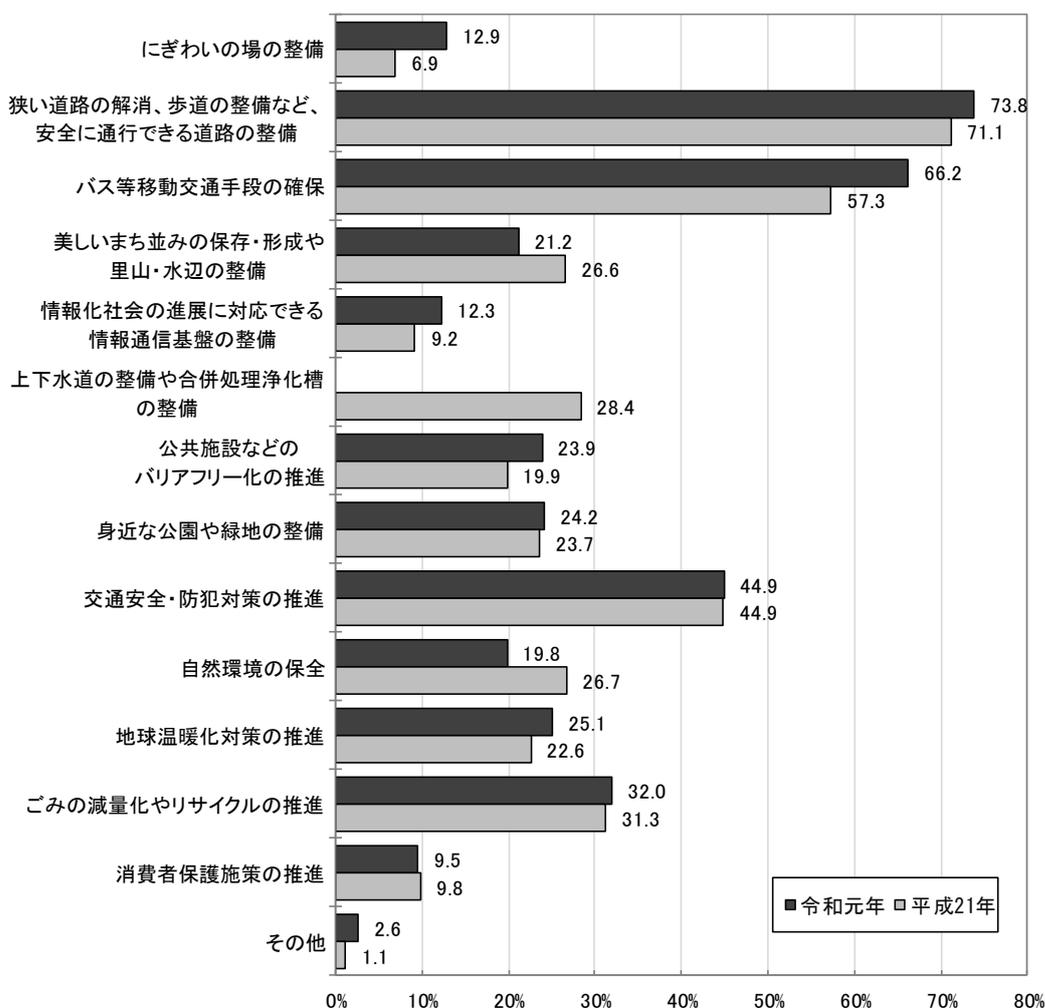


問11 あなたは都市基盤や生活環境などの分野について、今後どのような点に力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

「狭い道路の解消、歩道の整備など、安全に通行できる道路の整備」が73.8%で最も高くなっています。次いで「バス等移動交通手段の確保」が66.2%、「交通安全・防犯対策の推進」が44.9で続いています。

前回調査時と比較すると、「バス等移動交通手段の確保」の割合が高くなっていますが、概ね同様の傾向となっています。

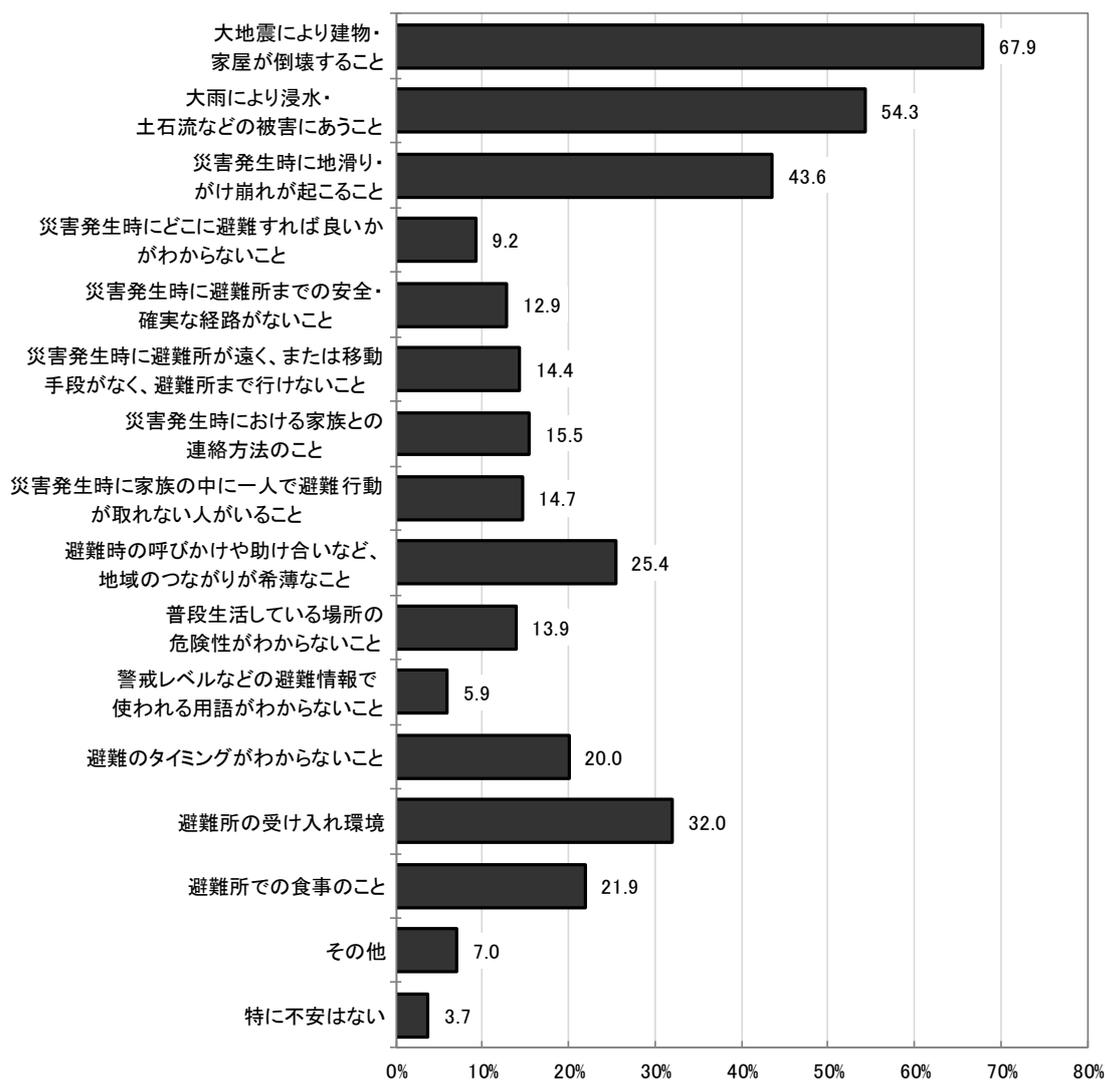
「地域別」では、「東部」を除く3地域では「狭い道路の解消、歩道の整備など、安全に通行できる道路の整備」が、「東部」では「バス等移動交通手段の確保」が最も高くなっています。



問12 地震や大雨などの災害に対して、特に不安に思うことは何ですか。（複数回答）

「大地震により建物・家屋が倒壊すること」が67.9%で最も高くなっています。次いで「大雨により浸水・土石流などの被害にあうこと」が54.3%、「災害発生時に地滑り・がけ崩れが起こること」が43.6%で続いています。

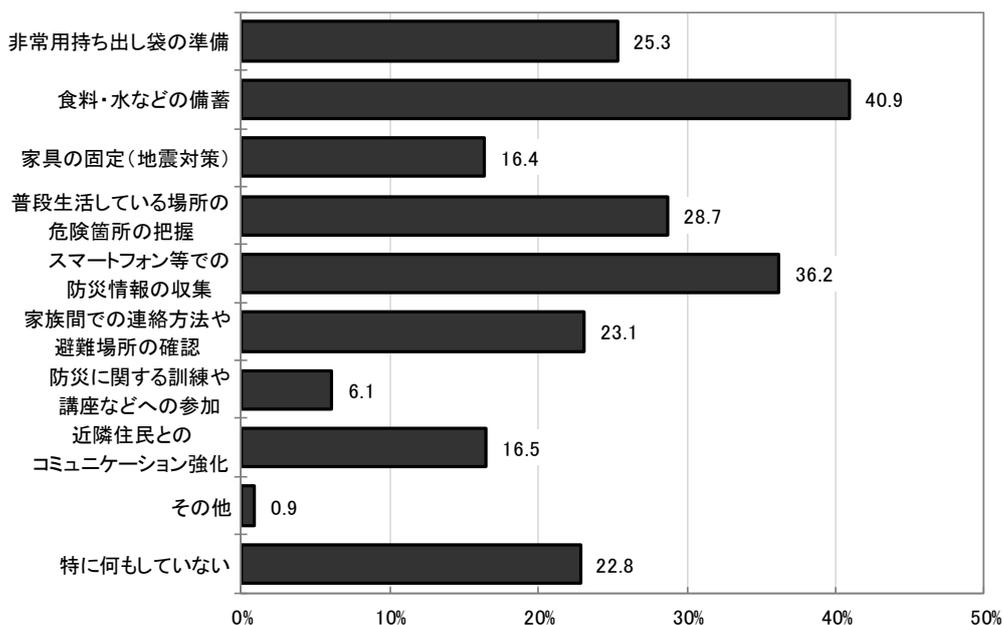
N=1,089



問13 ご家庭で、日頃からどのような防災・減災対策に取り組まれていますか。
(複数回答)

「食料・水などの備蓄」が40.9%で最も高くなっています。次いで「スマートフォン等での防災情報の収集」が36.2%、「普段生活している場所の危険箇所の把握」が28.7%で続いています。

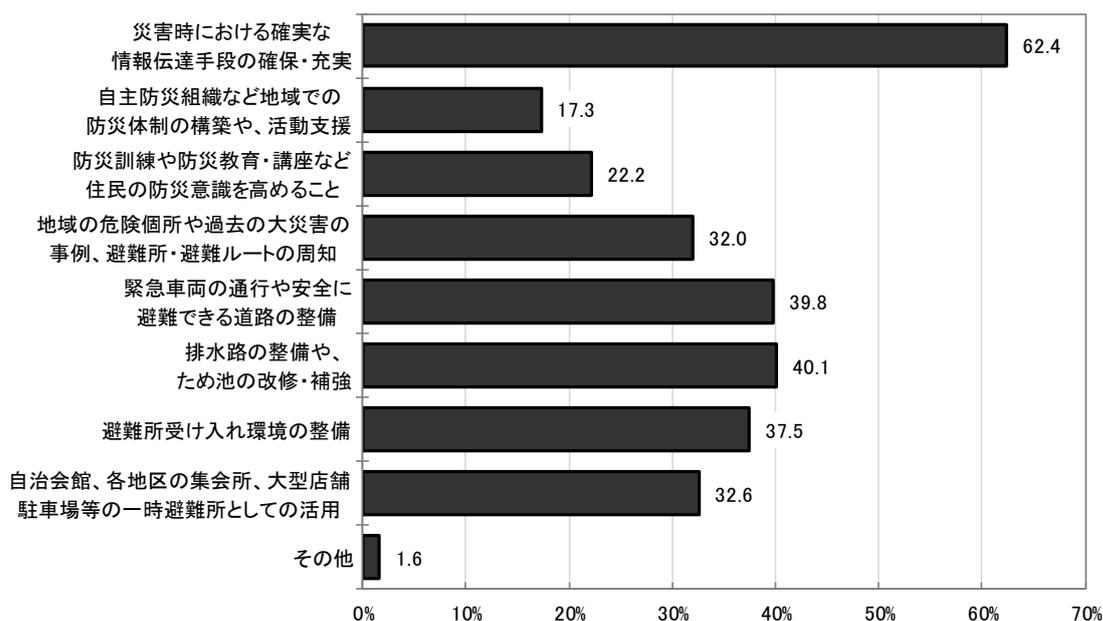
N=1,082



問14 あなたは防災・減災の分野について、今後どのような点に力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

「災害時における確実な情報伝達手段の確保・充実」が62.4%で最も高くなっています。次いで「排水路の整備や、ため池の改修・補強」が40.1%、「緊急車両の通行や安全に避難できる道路の整備」が39.8%、「避難所受け入れ環境の整備」が37.5%で続いています。

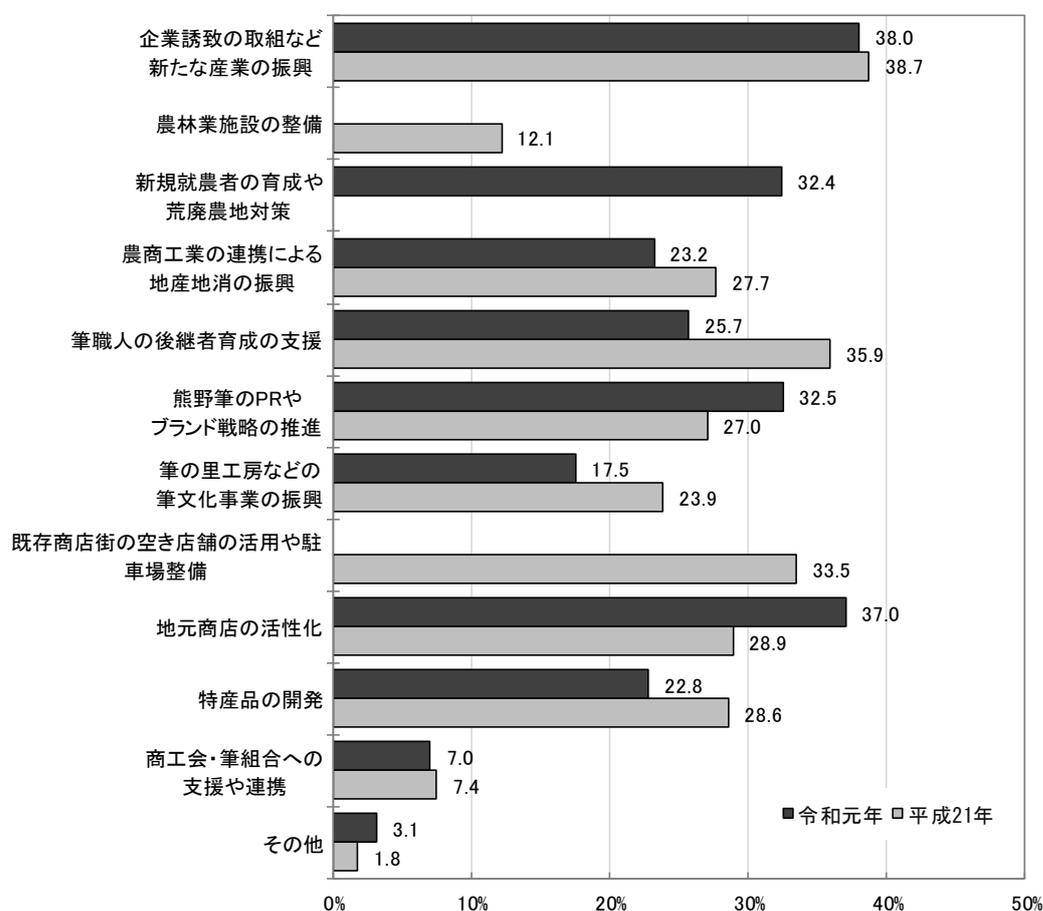
N=1,041



問15 あなたは産業の振興に向けて、今後どのような点に力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

「企業誘致の取組など新たな産業の振興」が38.0%で最も高くなっています。次いで「地元商店の活性化」が37.0%、「熊野筆のPRやブランド戦略の推進」が32.5%、「新規就農者の育成や荒廃農地対策」が32.4%で続いています。

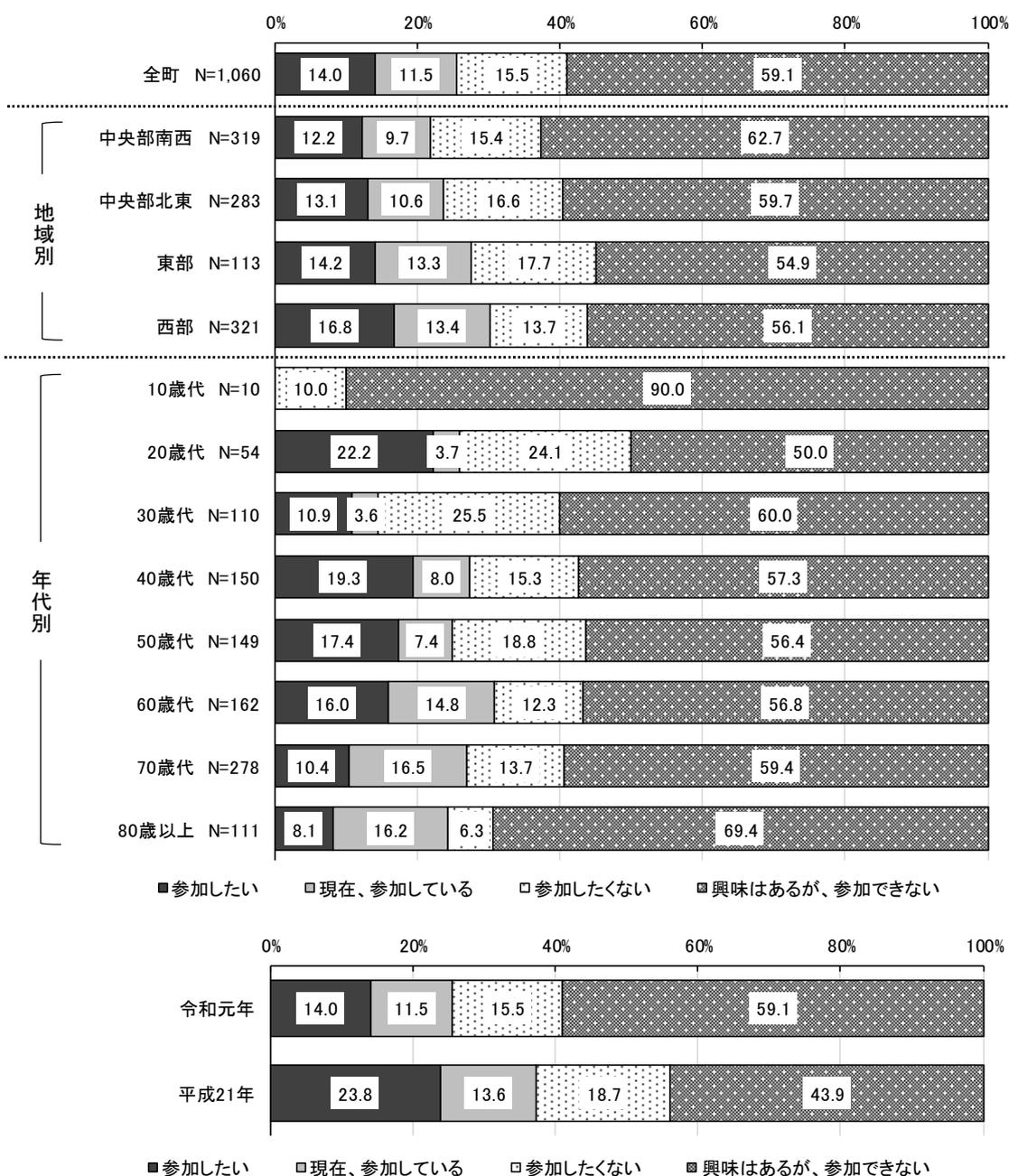
前回調査時と比較すると、「熊野筆のPRやブランド戦略の推進」「地元商店の活性化」の割合が高くなっています。



問16 あなたは、地域活動やボランティア活動、協働のまちづくりに参加したい
と思いますか。 (単数回答)

「興味はあるが、参加できない」が59.1%を占めています。【参加したい層(「参加したい」+「現在、参加している」)】が4分の1程度となっています。

地域別では、『西部』で【参加したい層】の割合が他の地域に比べて高くなっています。
年齢別では、『60歳代』で【参加したい層】の割合が他の年代に比べて高くなっています。
前回調査時と比較すると、【参加したい層】が減少しています。

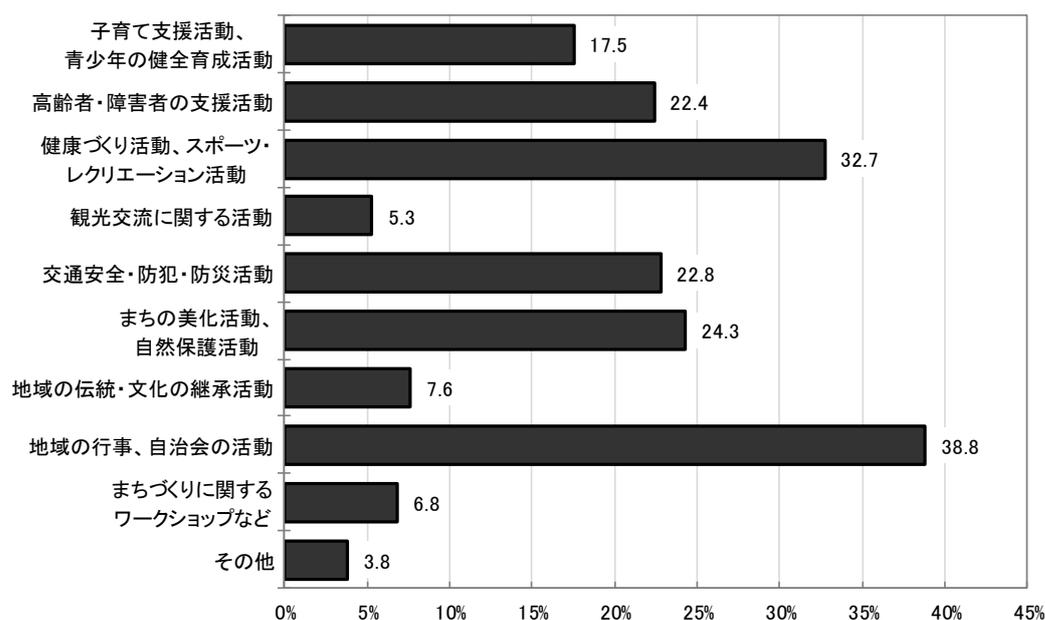


※ 問16で「参加したい」「現在、参加している」を選択した方におうかがいします。

問17 どのような分野に参加したいですか。また、参加していますか。（複数回答）

「地域の行事、自治会の活動」が38.8%で最も高くなっています。次いで「健康づくり活動、スポーツ・レクリエーション活動」が32.7%、「まちの美化活動、自然保護活動」が24.3%で続いています。

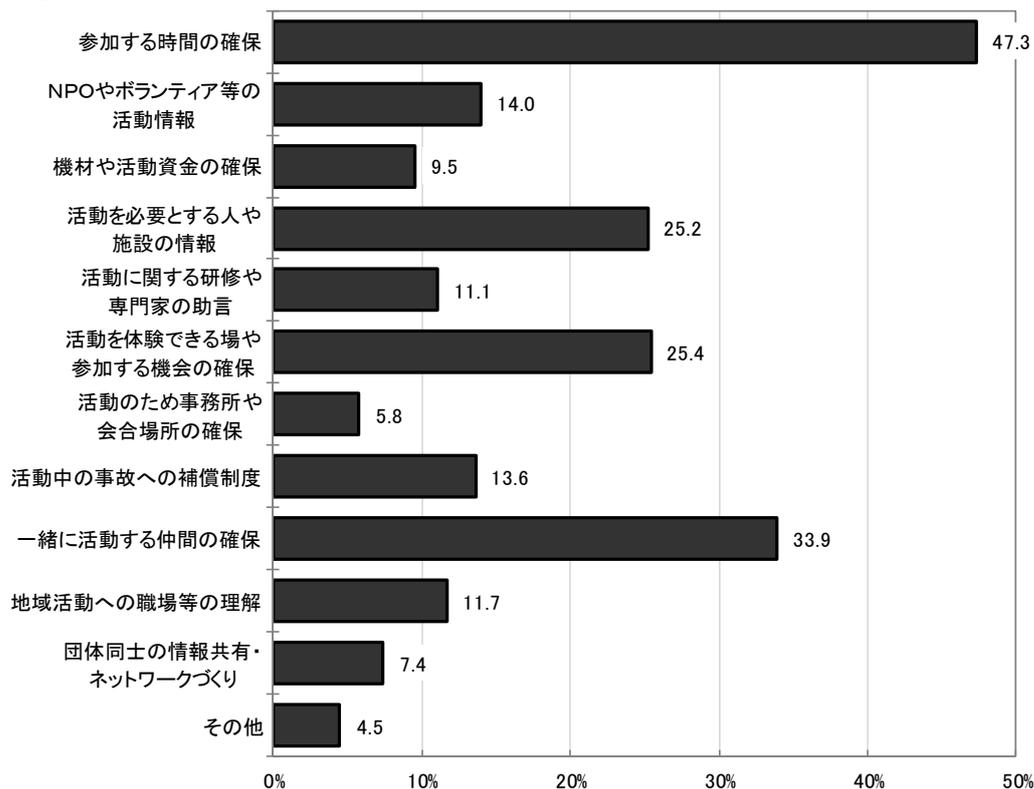
N=263



問18 あなたが地域活動や協働のまちづくりに参加しやすくなるためには何が 必要だと思いますか。（複数回答）

「参加する時間の確保」が47.3%で最も高くなっています。次いで「一緒に活動する仲間の確保」が33.9%、「活動を体験できる場や参加する機会の確保」が25.4%、「活動を必要とする人や施設の確保」が25.2%で続いています。

N=892

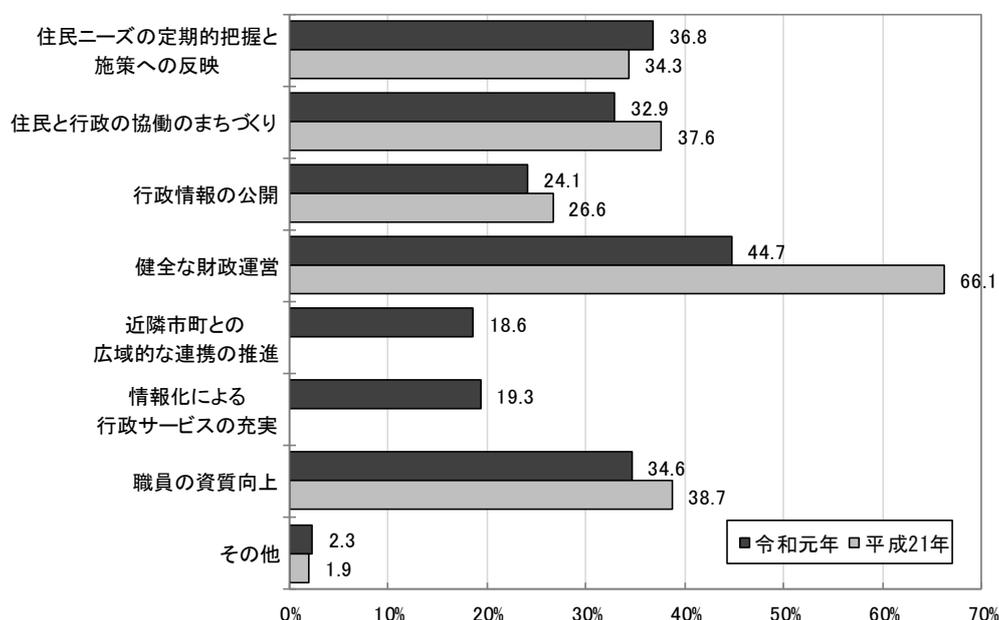


問19 あなたは、行政運営について、今後どのような点に力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

「健全な財政運営」が44.7%で最も高くなっています。次いで「住民ニーズの定期的把握と施策への反映」が36.8%、「職員の資質向上」が34.6%、「住民と行政の協働のまちづくり」が32.9%で続いています。

前回調査時と比較すると、「健全な財政運営」の割合が大きく減少しています。

「地域別」では、「西部」を除く3地域では「健全な財政運営」が、「西部」では「住民ニーズの定期的把握と施策への反映」が最も高くなっています。



3. まちの住みやすさについて

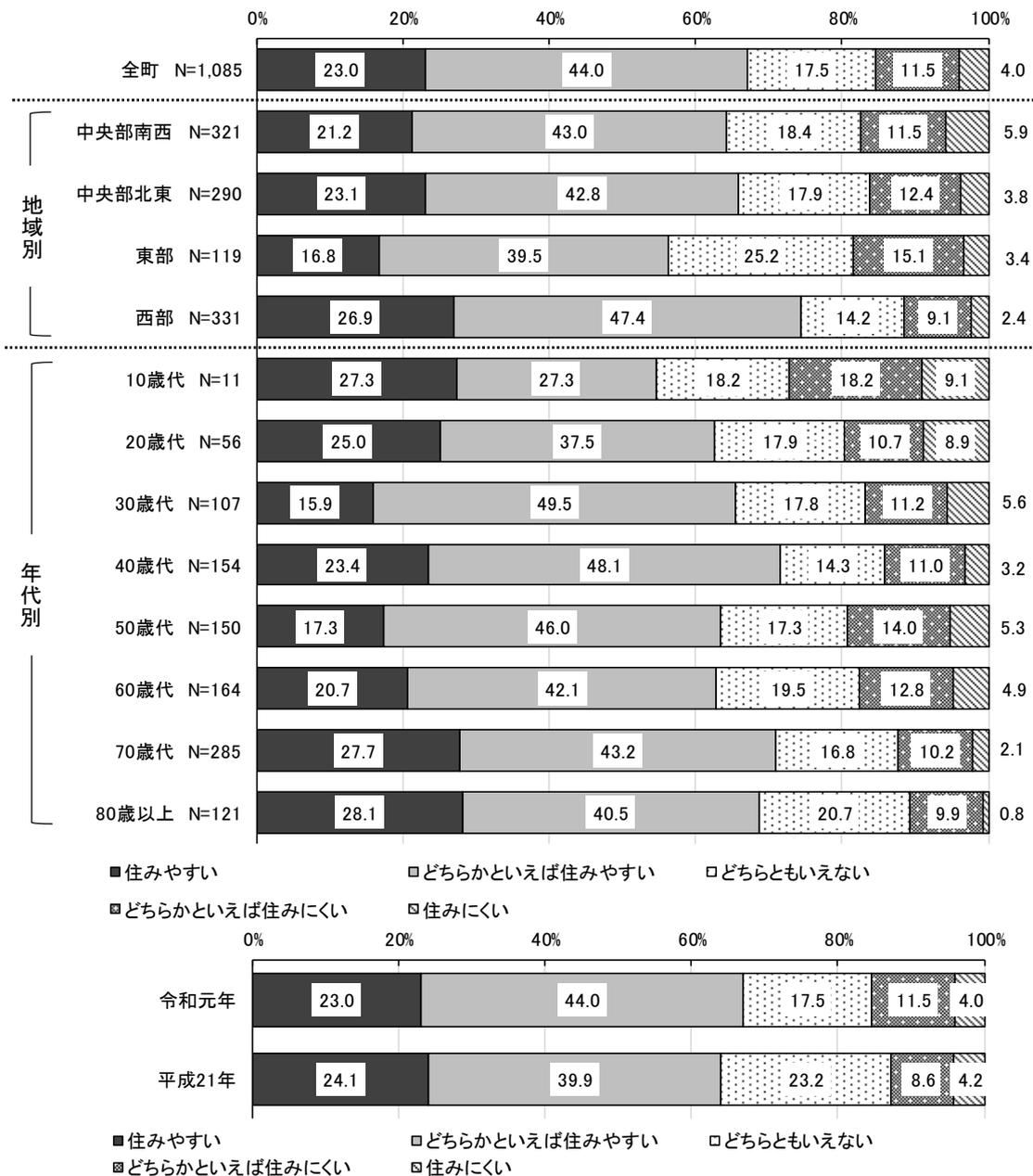
問20 あなたは、熊野町の住みやすさについてどのように思われますか。（単数回答）

「どちらかといえば住みやすい」が44.0%で最も高くなっています。次いで「住みやすい」が23.0%、「どちらともいえない」が17.5%が続いています。【住みやすい層（「住みやすい」＋「どちらかといえば住みやすい」）】が6割以上となっています。

地域別では、『西部』の【住みやすい層】の割合が7割以上と他の地域より高くなっています。

年代別では、『40歳代』『70歳代』の【住みやすい層】の割合が約7割と他の年代より高くなっています。

前回調査時と比較すると、【住みやすい層】は、ほぼ同じ割合となっています。



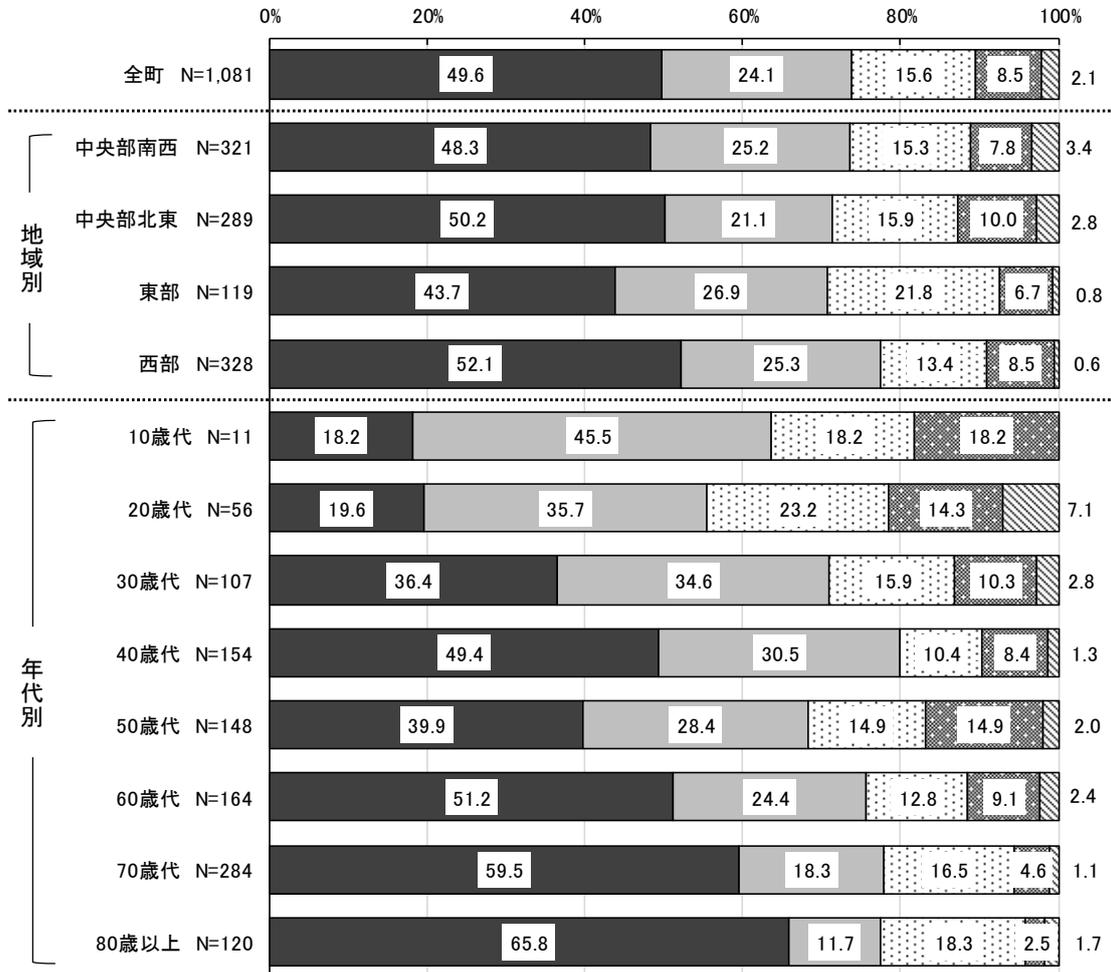
問21 あなたは、今後も熊野町に住み続けたいと思いますか。（単数回答）

「住み続けたい」が49.6%で最も高くなっています。次いで「当分は住みたい」が24.1%、「どちらともいえない」が15.6%が続いています。【住みたい層（「住み続けたい」+「当分は住みたい」）】が約7割となっています。

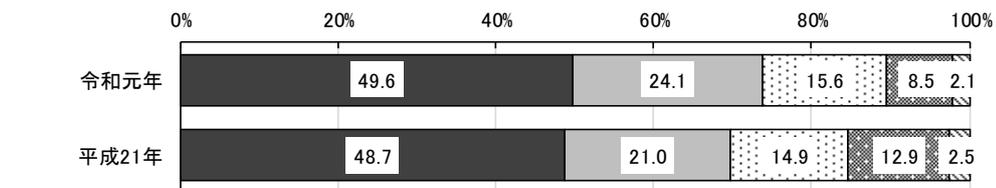
地域別では、4地域とも【住みたい層】の割合が最も高くなっています。

年代別では、『40歳代』の【住みたい層】の割合が他の年代より高くなっています。一方で、【住みたくない層（「住みたくない」+「どちらかといえば住みたくない」）】では、『20歳代』の割合が他の年代の比べ高くなっています。

前回調査時と比較すると、【住みたい層】は、ほぼ同じ割合となっています。



■住み続けたい □当分は住みたい □どちらともいえない □どちらかといえば住みたくない □住みたくない



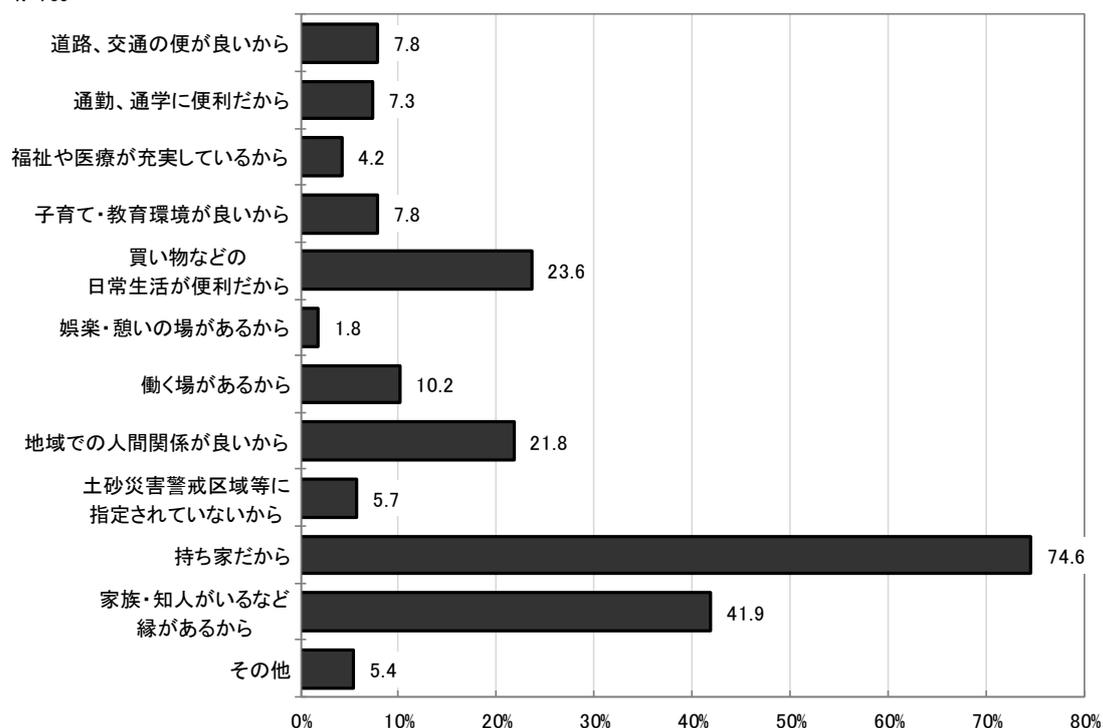
■住み続けたい □当分は住みたい □どちらともいえない □どちらかといえば住みたくない □住みたくない

※ 問21で「1. 住み続けたい」「2. 当分は住みたい」を選択した方におうかがいします。

問22 「住みたい」その理由は何ですか。（複数回答）

「持ち家だから」が74.6%で突出しています。「家族・知人がいるなど縁があるから」が41.9%、「買い物などの日常生活が便利だから」が23.6%、「地域での人間関係が良いから」が21.8%で続いています。

N=783

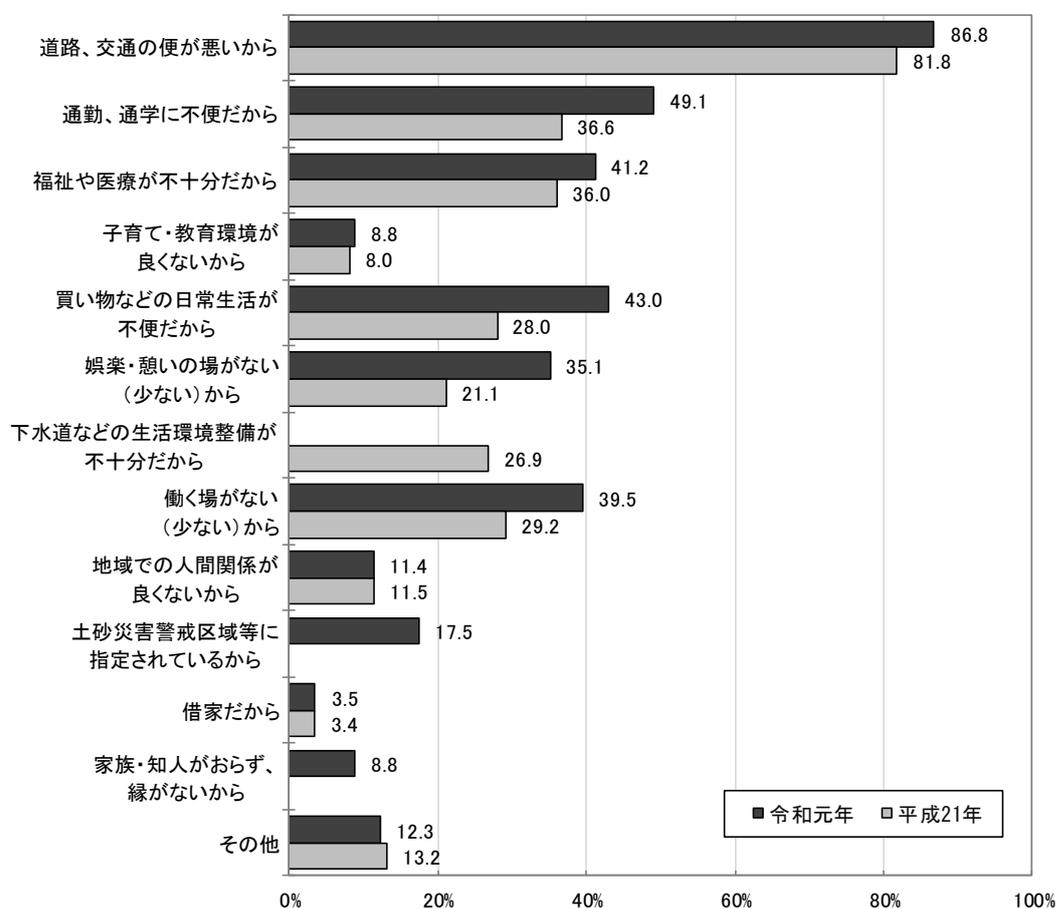


※ 問21で「4. どちらかといえば住みたくない」「5. 住みたくない」を選択した方におうかがいします。

問23 「住みたくない」その理由は何ですか。(MA)

「道路、交通の便が悪いから」が86.8%で突出しています。「通勤、通学に不便だから」が49.1%、「買い物などの日常生活が不便だから」が43.0%、「福祉や医療が不十分だから」が40.9%で続いています。

前回調査時と比較すると、「通勤、通学に不便だから」「買い物などの日常生活が不便だから」「娯楽・憩いの場がない(少ない)から」「働く場がない(少ない)から」の割合が高くなっています。



問24 あなたは、熊野町に愛着を持っていますか。（単数回答）

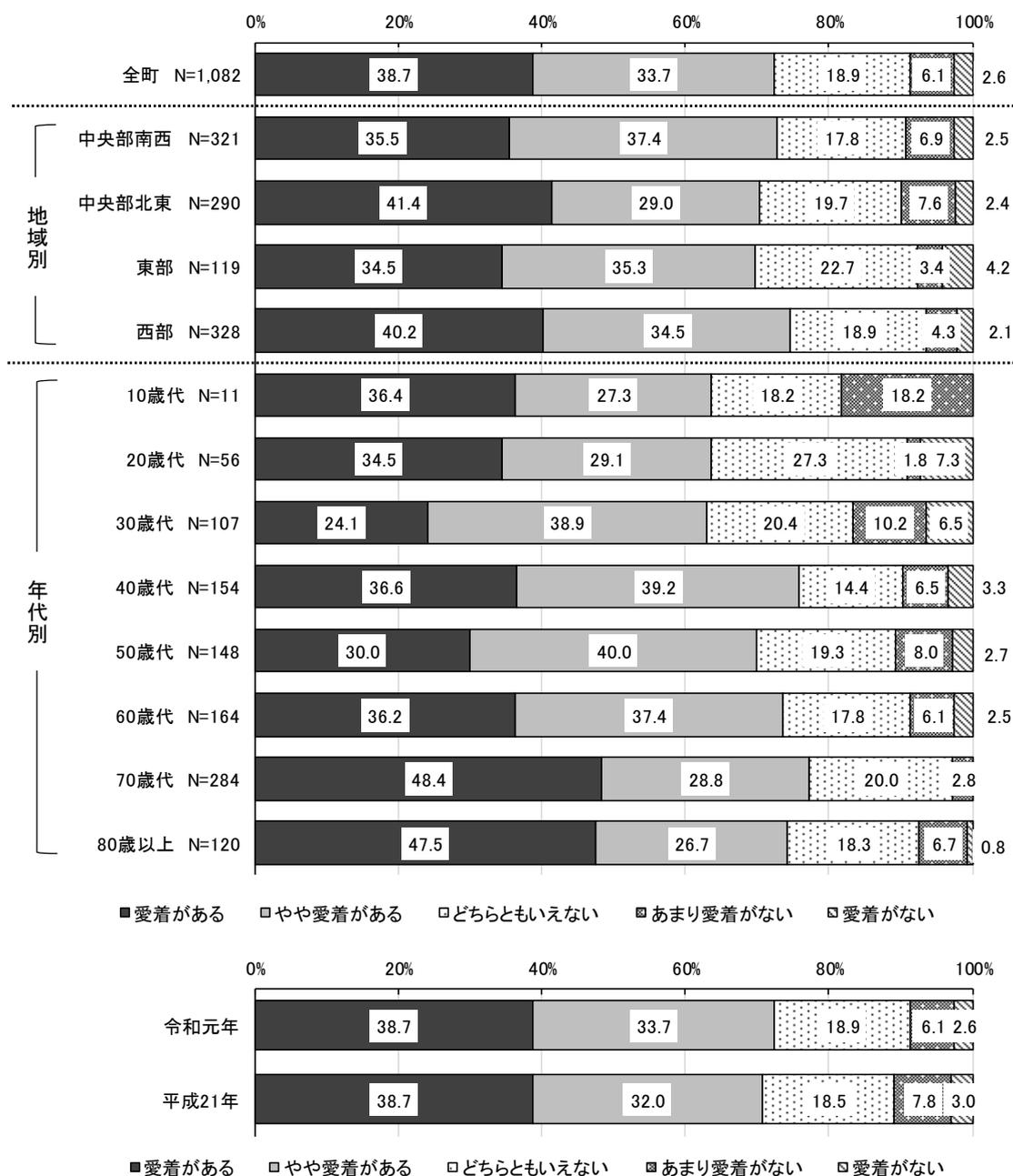
「愛着がある」が38.7%で最も高くなっています。次いで「やや愛着がある」が33.7%、「どちらともいえない」が18.9%が続いています。【愛着層（「愛着がある」+「やや愛着がある」）】が7割近くとなっています。

地域別では、4地域とも【愛着層】が【非愛着層】を上回っています。

年代別では、『40歳代以降』の年代で【愛着層】の割合が7割を超えて高くなっています。

【非愛着層】では『30歳代』の割合が他の年代と比べて高くなっています。

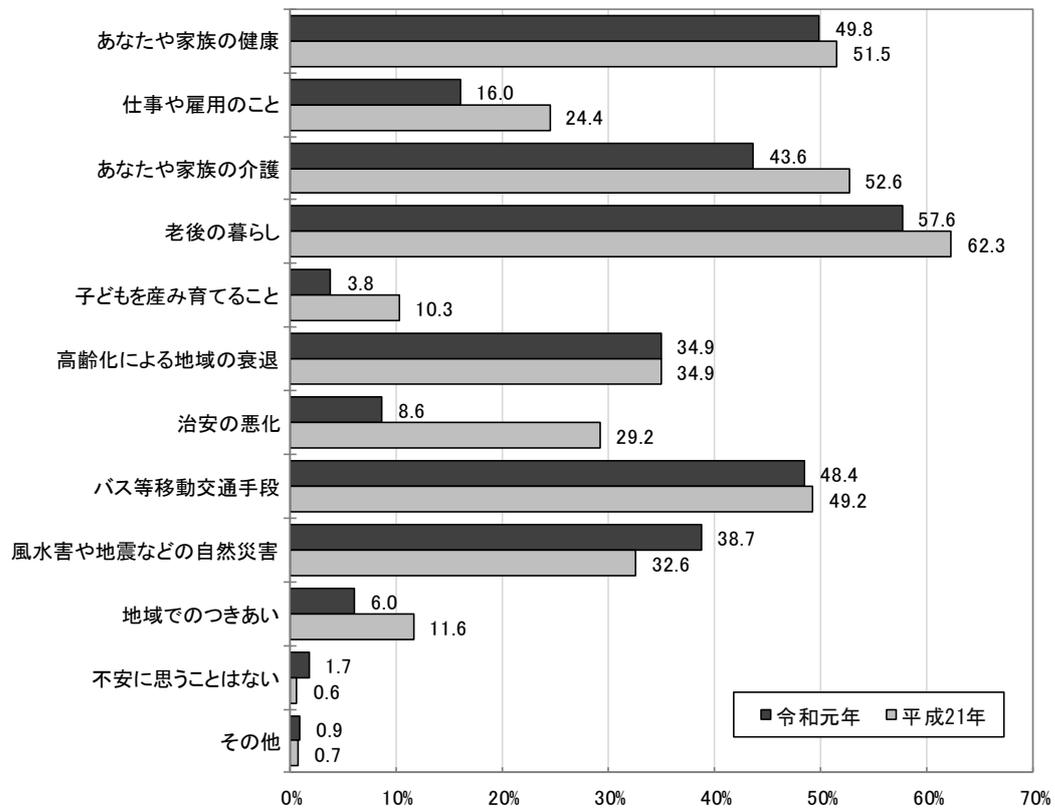
前回調査時と比較すると、【愛着層】は、ほぼ同じ割合となっています。



4. 今後のまちづくりについて

問25 あなたは、将来に対して、どのようなことが不安ですか。（複数回答）

「老後の暮らし」が57.6%で最も高くなっています。次いで「あなたや家族の健康」が49.8%、「バス等移動交通手段」が48.4%、「あなたや家族の介護」が43.6%が続いています。前回調査時と比較すると、「風水害や地震などの自然災害」の割合が高くなっています。

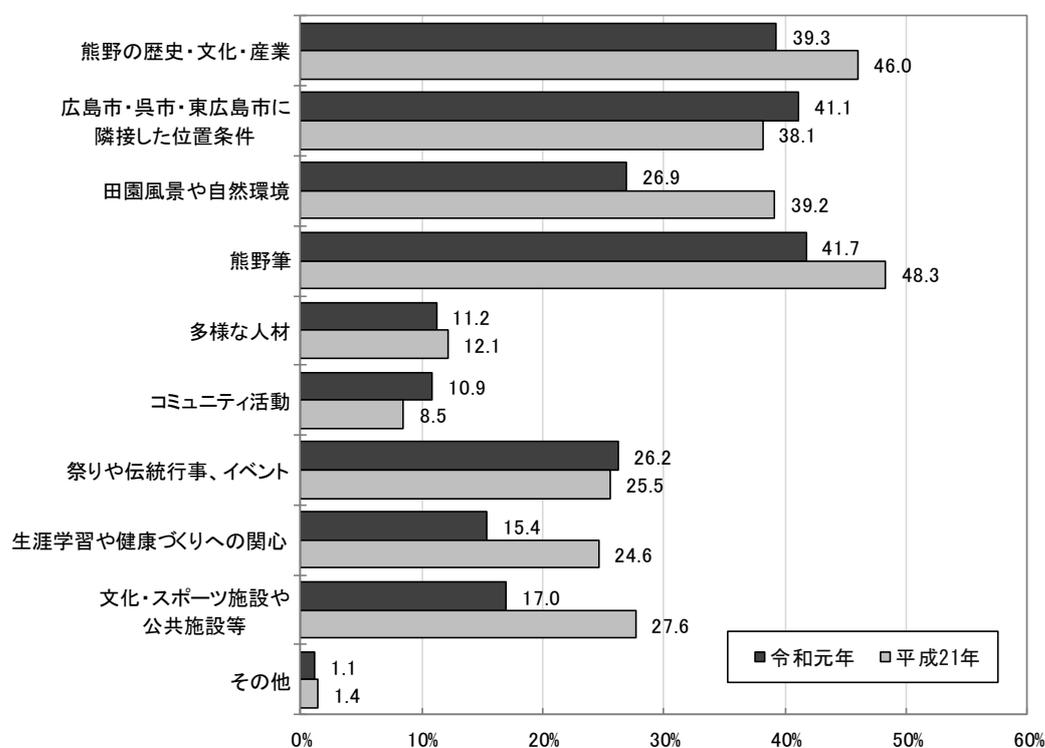


問26 あなたは、熊野町のこれからのまちづくりにおいて、活かしていきたいことや大切にしていきたいことは何だと思われますか。（複数回答）

「熊野筆」が41.7%で最も高くなっています。次いで「広島市・呉市・東広島市に隣接した位置条件」が41.1%、「熊野の歴史・文化・産業」が39.3%が続いています。

前回調査時と比較すると、全体的に割合が下がっています。

「年代別」では、「18～50歳代」では「熊野筆」が最も高く、次いで「広島市・東広島市に隣接した位置条件」が続いています。「60～70歳代」では「広島市・東広島市に隣接した位置条件」と「熊野の歴史・文化・産業」が同程度で高くなっています。

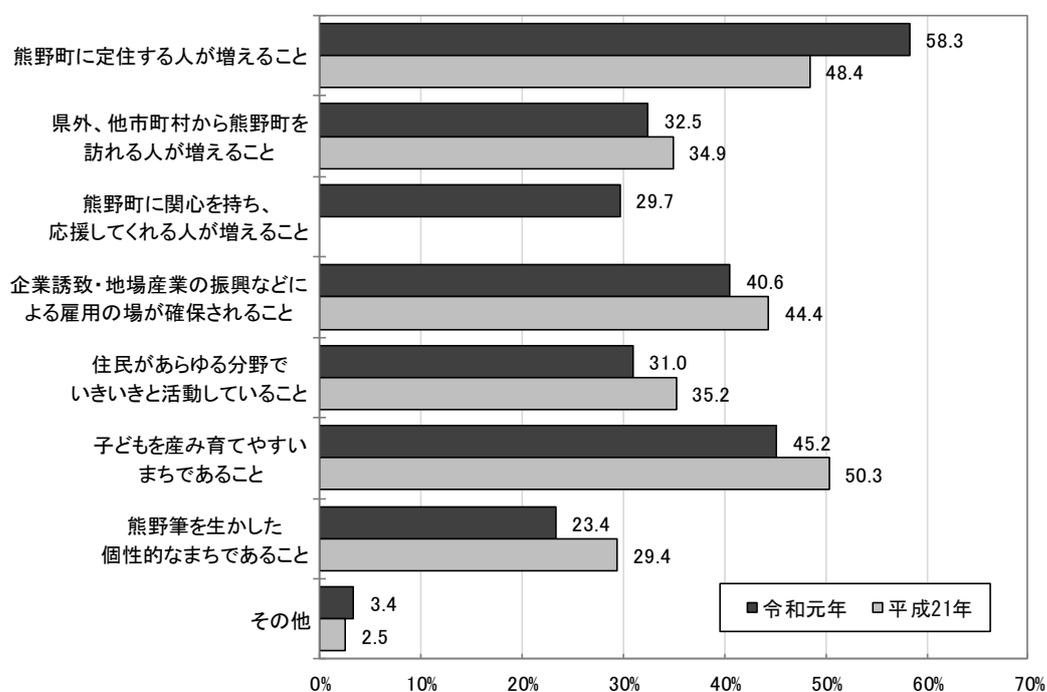


問27 あなたは熊野町の活性化には、どのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

「熊野町に定住する人が増えること」が58.3%で最も高くなっています。次いで「子どもを産み育てやすいまちであること」が45.2%、「企業誘致・地場産業の振興などによる雇用の場が確保されること」が40.6%で続いています。

前回調査時と比較すると、「熊野町に定住する人が増えること」の割合が高くなっています。

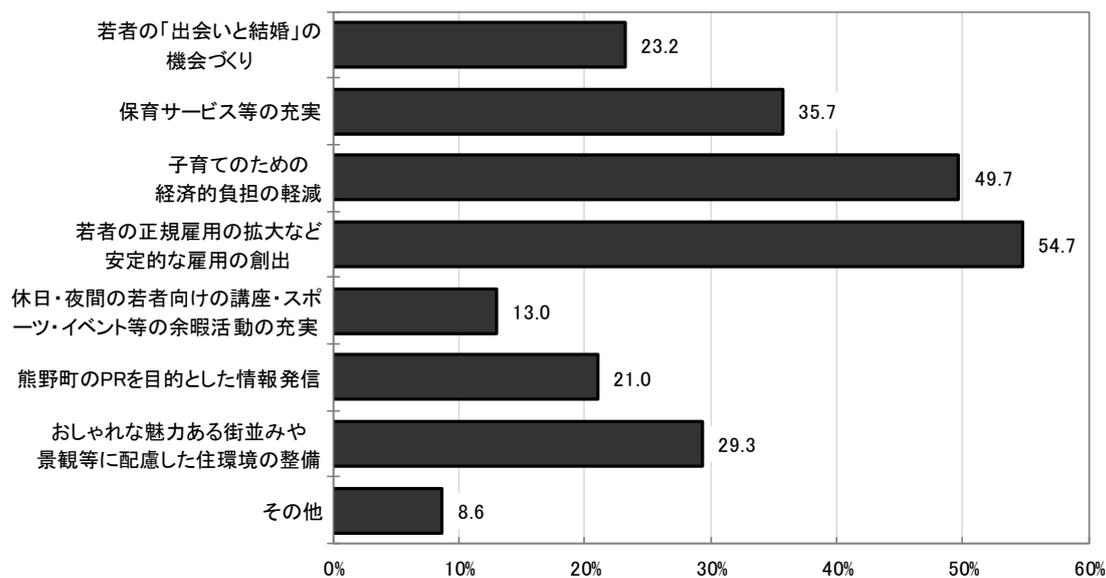
年代別では、「30歳代」を除く全世代で「熊野町に定住する人が増えること」が、「30歳代」では「子どもを産み育てやすいまちであること」が最も高くなっています。



問28 今後の熊野町の人口減少対策として、町外、県外から若い人を呼び込むためにどのような対策が重要だと思いますか。（複数回答）

「若者の正規雇用の拡大など安定的な雇用の創出」が54.7%で最も高くなっています。次いで「子育てのための経済的負担の軽減」が49.7%、「保育サービス等の充実」が35.7%で続いています。

N=1,033



問30 あなたは、熊野町が将来どのようなまちであれば良いと思いますか。（複数回答）

「道路や交通機関が整備された交通の便利の良いまち」が60.1%で最も高くなっています。次いで「犯罪が少なく、災害や地震に強い安全なまち」が53.5%、「保健・医療・福祉が充実した健康長寿のまち」が52.2%で続いています。

前回調査時と比較すると、「魅力ある商業施設や身近に商店のある買い物に便利なまち」の割合が高くなっています。

